

シラバス（授業計画書）

文化教養専門課程 映像メディア科 2 年

科 目 名	キャリアガイダンス(688)				教 科 区 分	一般教育科目
					必修 / 選択	必 修
担当教員	大内 香那子・梅村 泰成				実 務 経 験 内 容	
					[大内]求人情報会社にて採用コンサルティングに従事したのち、企業人事として多くの学生の選考に携わった後、キャリアコンサルタント・研修講師として活動を行っている。キャリアデザイン・ビジネスマインドセット・コミュニケーション活性を専門としており、これらの経験を活かして本授業の将来を考え、就活に前向きになるしくみを構築している。 [梅村]放送業界で制作を経験してきた。培った編集の知識・技術を活かし講義する。	
週 授 業 時 間 数	1 年次	2 年次	3 年次	4 年次		
	-	2	-	-		
科 目 の ね ら い ・ 到 達 目 標						
仕事をしていく上で必要となるビジネススキル向上を目的とするとともに、就職活動がスムーズに進めることができるよう、様々な準備を行う。社会人として求められる最低限のコミュニケーション能力と、社会人として持っているべき常識および、ふさわしい行動をとれる能力を身につけていく。						
授業形態	演習	教 室	161 教室	補助教員	なし	
就職活動がスムーズに進めることができるよう、様々な準備を行う。社会人として求められる最低限のコミュニケーション能力と、社会人として持っているべき常識およびやふさわしい行動をとれる能力を身につけていく。						
教 科 書 教 材	仕事力を身に付ける 20 のステップ FOM 出版 富士通エフ・オー・エム株式会社 著 (毎授業で使用)					

授業計画・内容	
●授業時間：2 単位時間/回	
【前期】	
1～2 回	授業の目的と振り返りシートの理解、就職活動への意識を高める
3～4 回	就活とコミュニケーションのつながりを理解する、挨拶の大切さ①
5～6 回	意見をつくる個人ワーク
7～8 回	意見交換実践のグループワーク
9～11 回	自己理解、仕事理解、グループでの調べワーク
12 回	グループワークを活かし、専門学校での学びのつながりを考える
13～14 回	自己 PR が必要な理由
15 回	自己 PR 作成ワーク
16 回	前期の振り返りと自己 PR 作成の好事例共有 → 修正してみよう
●授業時間：2 単位時間/回	
【後期】	
1 回	社会人とは・学校と職場の違い、学校での過ごし方で意識すべきこと、挨拶の大切さ②
2 回	組織内でのコミュニケーションにつながる学校内での過ごし方
3 回	グループ制作と発表（プレ社会人としての、学校での過ごし方の工夫）
4 回	就活スケジュール確認と先輩への質問を考えるワーク、グループワークの説明
5～7 回	就職活動トークセッション、グループ制作と発表
8 回	ビジネスマナーってなんだろう
9 回	正しい敬語を身につけて、就活シーンに活かそう
10～11 回	履歴書とエントリーシートの書き方、応募書類の書き方
12～14 回	面接官は何をみているのか、面接で自分を表現する準備をしよう、面接体験をしてみよう
15～16 回	1 年間での成長変化・卒業後どうなっていたいか、考えよう ガクチカを作成しよう

評価コード	11	
評価方法	・100 点を満点とし、筆記試験を 60 点、平常点（出席および受講の状況）を 40 点の配点とする。 ・通常の授業における演習をもって定期試験に代える場合は、その旨を事前に周知のうえで授業での演習をその都度評価する。 ・成績の評定は、定期試験開始前日までにそれらの平均とする。	

シラバス（授業計画書）

文化教養専門課程 映像メディア科 2 年

科 目 名	映像リテラシー (A25)				教 科 区 分	専門教育科目
					必修 / 選択	必 修
担当教員	山田 慎				実 務 経 験 内 容	
					【山田】ゲーム会社在籍時に企画部署に所属しており、プロデューサーの補助者としても IP ビジネスに関係。独立後も多くのプロジェクトに参加しており、本校専任教員となるまで、ゲームビジネスの実務と関わってきた。2020 年以降は行政書士として法実務に携わっている。	
週 授 業 時 間 数	1 年次	2 年次	3 年次	4 年次	科 目 の ね ら い ・ 到 達 目 標	
	-	2	-	-		
映像制作における映像リテラシーの基礎を学ぶことで、映像制作の過程において必要な教養を養う。また、社会情勢や世の中の流行を学び、時代の流れに沿った映像表現や映像についてのリテラシーを身につける。						
授業形態	講義	教 室	161 教室	補助教員	なし	
映像制作における映像リテラシーの知識を基本的に講義形式で行っていく。必要に応じて課題を提示し、レポートを作成させ、提出させる。						
教 科 書 教 材	はじめて学ぶ 映像コミュニケーション 福村出版 長野真一/増本貴士 著（その他関連資料を適宜配布）					

授 業 計 画 ・ 内 容	
●授業時間：2 単位時間/回 【前期】 1～2 回 演出導入 2～4 回 5W2H とは 5～6 回 報道相について 7～8 回 現場におけるコミュニケーションについて 9～10 回 映画における演出方法 11～12 回 作品の権利について 13～14 回 シチュエーションごとの演出 15～16 回 前期まとめ ●授業時間：2 単位時間/回 【後期】 7～18 回 前期の復習と後期の説明 19～20 回 CM の演出方法 21～22 回 PV, MV, VP などの違い 23～24 回 報道番組の演出方法 25～26 回 ドキュメンタリー番組の演出方法 27～28 回 バラエティ番組の演出方法 29～30 回 ドラマの演出方法 31～32 回 後期まとめ	

評価コード	3
評 価 方 法	・定期試験（100 点満点）の点数を成績の評定とする。筆記試験を 80 点、平常点（出席および受講の状況）を 20 点の配点とする。成績の評定は、S（90～100 点）、A（80～89 点）、B（70～79 点）、C（60～69 点）、F（60 点未満）である。定期試験が受験できなかった及び評定が F の場合、追試験を受験する。 ・追試験（100 点満点）の点数は、次の（1）または（2）とする。 （1）出席停止となる疾病（医師の診断書のある者）および通院が証明できる病欠、公共交通機関の遅滞等による者（証明書のある者）ならびに、公欠が認められた日時に定期試験を受験できなかった場合は、60 点まではその点数とし、60 点を超えた場合は、60 点を超えた分の点数の 10 分の 6 に 60 点を加えた点数とする。 （2）上述（1）以外の場合は、60 点まではその点数とし、60 点を超えた場合は 60 点とする。 ・前期末試験および後期末試験を実施した場合、各期で確定した点数の平均（1 点未満については切り上げ）を成績の評定とする。

シラバス（授業計画書）

文化教養専門課程 映像メディア科 2 年

科 目 名	コミュニケーション論 (A23)				教 科 区 分	専門教育科目
					必修 / 選択	必 修
担当教員	梅村 泰成				実 務 経 験 内 容	
					[梅村]放送業界で制作を経験してきた。培った編集の知識・技術を活かし講義する。	
週 授 業 時 間 数	1 年次	2 年次	3 年次	4 年次		
	-	2	-	-		
科 目 の ね ら い ・ 到 達 目 標						
コミュニケーションの基礎から応用まで学ぶことで、感情表現を的確に読み解くことや、映像制作の過程において必要なプレゼンテーションなどのスキルを養う。						
授業形態	講義	教 室	161 教室	補助教員	なし	
映像制作におけるコミュニケーションの知識を基本的に講義形式で行っていく。必要に応じて課題を提示し、課題を作成していく。プレゼン資料などを最終的に各自で作成させ、提出させる。						
教 科 書 教 材	はじめての情報メディア コミュニケーションリテラシー 技術評論社 柴岡信一郎著 (その他関連資料を適宜配布)					

授 業 計 画 ・ 内 容	
●授業時間：2 単位時間/回 【前期】 1～4 回 コミュニケーションの基礎 5～10 回 コミュニケーションの実践技法 11～16 回 プレゼンテーションの基礎・応用 ●授業時間：2 単位時間/回 【後期】 17～18 回 前期の復習 19～24 回 コミュニケーションの応用 25～32 回 各テーマに基づいた企画書作成	

評価コード	3	
評 価 方 法	・ 定期試験（100 点満点）の点数を成績の評定とする。筆記試験を 80 点、平常点（出席および受講の状況）を 20 点の配点とする。成績の評定は、S（90～100 点）、A（80～89 点）、B（70～79 点）、C（60～69 点）、F（60 点未満）である。定期試験が受験できなかった及び評定が F の場合、追試験を受験する。 ・ 追試験（100 点満点）の点数は、次の（1）または（2）とする。 （1）出席停止となる疾病（医師の診断書のある者）および通院が証明できる病欠、公共交通機関の遅滞等による者（証明書のある者）ならびに、公欠が認められた日時に定期試験を受験できなかった場合は、60 点まではその点数とし、60 点を超えた場合は、60 点を超えた分の点数の 10 分の 6 に 60 点を加えた点数とする。 （2）上述（1）以外の場合は、60 点まではその点数とし、60 点を超えた場合は 60 点とする。 ・ 前期末試験および後期末試験を実施した場合、各期で確定した点数の平均（1 点未満については切り上げ）を成績の評定とする。	

シラバス（授業計画書）

文化教養専門課程 映像メディア科 2 年

科 目 名	映像コンプライアンス (A26)				教 科 区 分		専門教育科目
					必修 / 選択		必 修
担当教員	山田 慎				実 務 経 験 内 容		
					【山田】ゲーム会社在籍時に企画部署に所属しており、プロデューサーの補助者としても IP ビジネスに関係。独立後も多くのプロジェクトに参加しており、本校専任教員となるまで、ゲームビジネスの実務と関わってきた。2020 年以降は行政書士として法実務に携わっている。		
週 授 業 時 間 数	1 年次	2 年次	3 年次	4 年次	科 目 の ね ら い ・ 到 達 目 標		
	-	2	-	-			
映像制作におけるコンプライアンス・各種法令・著作権などの基礎から応用まで学ぶことで、映像制作の過程において必要な教養を養う。							
授業形態	講義	教 室	161 教室		補助教員	なし	
映像制作におけるコンプライアンス・著作権の知識を基本的に講義形式で行っていく。必要に応じて課題を提示し、レポートを作成させ、提出させる。							
教 科 書 教 材	はじめて学ぶ 映像コミュニケーション 福村出版 長野真一/増本貴士著（その他関連資料を適宜配布）						

授 業 計 画 ・ 内 容

●授業時間：2 単位時間/回

【前期】

- 1～2 回 演出導入
- 2～4 回 5W2H とは
- 5～6 回 報道相について
- 7～8 回 現場におけるコミュニケーションについて
- 9～10 回 映画における演出方法
- 11～12 回 作品の権利について
- 13～14 回 シチュエーションごとの演出
- 15～16 回 前期まとめ

●授業時間：2 単位時間/回

【後期】

- 17～18 回 前期の復習と後期の説明
- 19～20 回 CM の演出方法
- 21～22 回 PV, MV, VP などの違い
- 23～24 回 報道番組の演出方法
- 25～26 回 ドキュメンタリー番組の演出方法
- 27～28 回 バラエティ番組の演出方法
- 29～30 回 ドラマの演出方法
- 31～32 回 後期まとめ

評価コード

3

評 価 方 法

- ・定期試験（100 点満点）の点数を成績の評定とする。筆記試験を 80 点、平常点（出席および受講の状況）を 20 点の配点とする。成績の評定は、S（90～100 点）、A（80～89 点）、B（70～79 点）、C（60～69 点）、F（60 点未満）である。定期試験が受験できなかった及び評定が F の場合、追試験を受験する。
- ・追試験（100 点満点）の点数は、次の（1）または（2）とする。
 - （1）出席停止となる疾病（医師の診断書のある者）および通院が証明できる病欠、公共交通機関の遅滞等による者（証明書のある者）ならびに、公欠が認められた日時に定期試験を受験できなかった場合は、60 点まではその点数とし、60 点を超えた場合は、60 点を超えた分の点数の 10 分の 6 に 60 点を加えた点数とする。
 - （2）上述（1）以外の場合は、60 点まではその点数とし、60 点を超えた場合は 60 点とする。
- ・前期末試験および後期末試験を実施した場合、各期で確定した点数の平均（1 点未満については切り上げ）を成績の評定とする。

シラバス（授業計画書）

文化教養専門課程 映像メディア科 2 年

科 目 名	演出論(910)				教 科 区 分	専門教育科目
					必修 / 選択	必 修
担当教員	川崎 慎也				実 務 経 験 内 容 [川崎]シナリオライターとしてテレビ・ラジオ番組で長年構成・台本を担当。培ってきた演出力で講義する。	
週 授 業 時 間 数	1 年次	2 年次	3 年次	4 年次		
	-	2	-	-		
科 目 の ね ら い ・ 到 達 目 標						
映像・イベント・演劇など、何かを面白く作り上げることを演出と呼ぶが、その手法は媒体によってさまざまである。それぞれについて実例を交えながら説明し、どうすれば効果的な演出になるか、学生に問いかけ、一緒に考えながら授業を進めていく。						
授業形態	講義	教 室	161 教室		補助教員	なし
授業は講義形式で行う。場合に応じて PC をスクリーンに映し、演出例を提示していく。 また、グループワークなど能動的に授業に参加できる仕組みを展開していく。						
教 科 書 教 材	なし					

授 業 計 画 ・ 内 容	
●授業時間：2 単位時間/回 【前期】 1～2 回 前期オリエンテーション 2～4 回 演出導入 5～6 回 5W2H とは 7～8 回 PV, MV, VP などの違い 9～10 回 バラエティ番組の演出技法 11～12 回 ドキュメンタリー番組の演出技法 13～14 回 報道番組の演出技法 15～16 回 前期まとめ ●授業時間：2 単位時間/回 【後期】 17～18 回 前期復習と後期オリエンテーション 19～20 回 CM の演出技法 21～22 回 ドラマの演出方法 23～24 回 映画の演出技法① 25～26 回 映画の演出技法② 27～28 回 映画の演出技法③ 29～30 回 「演出」とは何か 31～32 回 後期まとめ	

評価コード	3
評 価 方 法	・定期試験（100 点満点）の点数を成績の評定とする。筆記試験を 80 点、平常点（出席および受講の状況）を 20 点の配点とする。成績の評定は、S（90～100 点）、A（80～89 点）、B（70～79 点）、C（60～69 点）、F（60 点未満）である。定期試験が受験できなかった及び評定が F の場合、追試験を受験する。 ・追試験（100 点満点）の点数は、次の（1）または（2）とする。 （1）出席停止となる疾病（医師の診断書のある者）および通院が証明できる病欠、公共交通機関の遅滞等による者（証明書のある者）ならびに、公欠が認められた日時に定期試験を受験できなかった場合は、60 点まではその点数とし、60 点を超えた場合は、60 点を超えた分の点数の 10 分の 6 に 60 点を加えた点数とする。 （2）上述（1）以外の場合は、60 点まではその点数とし、60 点を超えた場合は 60 点とする。 ・前期末試験および後期末試験を実施した場合、各期で確定した点数の平均（1 点未満については切り上げ）を成績の評定とする。

シラバス（授業計画書）

文化教養専門課程 映像メディア科 2 年

科 目 名	映像制作実習 2 (A28)				教 科 区 分	専門教育科目
					必修 / 選択	必 修
担当教員	梅村 泰成・石黒 誠				実 務 経 験 内 容	
					[梅村]放送業界で制作を経験してきた。培った編集の知識・技術を活かし講義する。	
週 授 業 時 間 数	1 年次	2 年次	3 年次	4 年次		
	-	12	-	-		
科 目 の ね ら い ・ 到 達 目 標						
映像制作を行うためにはどんな工程で、どのような考えで進めいけばいいのか、実際に映像制作を行いながら、その方法を学ぶ。特に撮影・編集だけではなく、その前段階にあたる企画・構成にも力を入れていく。						
授業形態	実習	教 室	161 教室	補助教員	なし	
形態は実習形式で行う。映像制作における制作・技術を実践的に学ぶ。また、グループワークとして映像制作を行い、必要に応じて適宜講義を行っていく。後期の最後に集大成として、映像を制作し発表・講評を行う。						
教 科 書 教 材	貸与ノート型パソコン（授業内で適宜使用）					

授 業 計 画 ・ 内 容	
●授業時間：2 単位時間/回 【前期】 1～6 回 ガイダンス(映像制作について説明) 7～20 回 映像制作におけるカメラ応用技術① 21～30 回 映像制作におけるカメラ応用技術② 31～40 回 映像制作におけるカメラ応用技術③ 41～50 回 映像制作における照明応用技術① 51～62 回 映像制作における照明応用技術② 63～74 回 映像制作における音声・録音応用技術① 75～80 回 前期まとめ ●授業時間：2 単位時間/回 【後期】 81～91 回 前期振り返り、後期について説明 92～102 回 撮影実践① 103～113 回 撮影実践② 114～124 回 中間テスト 125～135 回 映像制作① 136～146 回 映像制作② 147～157 回 映像作品発表・講評 158～160 回 まとめ	

評価コード	13	
評 価 方 法	・100 点を満点とし、授業時間内における実技技能を 60 点とし、平常点（出席および受講の状況）を 40 点の配点にする。 ・すべての実習項目について合格点に達していることとし、合格点に達しなかった者および欠席した者は、追実習願を提出し、認められた者には指定した日時に追実習を行う。 ・実習は、定期試験開始の前日までに終了させる。	

シラバス（授業計画書）

文化教養専門課程 映像メディア科 2 年

科 目 名	映像編集実習 2 (A30)				教 科 区 分	専門教育科目
					必修 / 選択	必 修
担当教員	安田 雄太				実 務 経 験 内 容	
					[安田]映像業界で制作技術を経験してきた。培った映像関連の知識・技術を活かし講義する。	
週 授 業 時 間 数	1 年次	2 年次	3 年次	4 年次		
	-	8	-	-		
科 目 の ね ら い ・ 到 達 目 標						
ノートパソコンを用いて、動画編集ソフト「Premiere Pro」「After Effects」の操作習得を目指す。また、編集技法を用いた映像作品の制作を実践的に行う。						
授業形態	実習	教 室	161 教室	補助教員	なし	
ノートパソコンを使用し、ジャンルに合わせた編集のテクニックを基本から応用まで磨いていく。編集ソフトを用いた作品制作も行う。						
教 科 書 教 材	Premiere Pro よくばり入門・Affter Effects よくばり入門 インプレス 金泉太一 著 貸与ノート型パソコン（授業内で使用）					

授 業 計 画 ・ 内 容	
●授業時間：2 単位時間/回 【前期】 1～4 回 前期授業概要説明、映像編集について 5～10 回 映像編集ソフトを用いた動画編集技術の応用 11～20 回 Adobe Premiere Pro を用いた作品制作① 21～30 回 Adobe Premiere Pro を用いた作品制作② 31～34 回 BGM・SE を効果的に活用した編集応用実践 35～38 回 動画編集実習① 39～42 回 動画編集実習② 43～48 回 前期まとめ ●授業時間：2 単位時間/回 【後期】 49～52 回 後期授業概要説明、前期の復習 53～56 回 Adobe After Effects について 57～63 回 映像編集の基本操作① 64～70 回 映像編集の基本操作② 71～77 回 Adobe After Effects を用いた作品制作① 78～84 回 Adobe After Effects を用いた作品制作② 85～91 回 動画編集実習 (Premiere Pro、After Effects) 92～96 回 後期まとめ	

評価コード	13
評 価 方 法	・100 点を満点とし、授業時間内における実技技能を 60 点とし、平常点（出席および受講の状況）を 40 点の配点にする。 ・すべての実習項目について合格点に達していることとし、合格点に達しなかった者および欠席した者は、追実習願を提出し、認められた者には指定した日時に追実習を行う。 ・実習は、定期試験開始の前日までに終了させる。